

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100211		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホームやすらぎの里 さがら		
所在地	熊本県球磨郡相良村柳瀬973		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今現在、特に心掛けていることは、『毎日変わらない日常生活を過ごす』です。生活の変化に左右され易い認知症状(BPSD)であるため、BPSDが発症しない環境づくり、ご利用者様への対応、日常生活の流れを特に注意しています。その中でも適度な運動を計画性をもって実施することで、ADLの低下も防ぐ対策も行っていきます。それを周知徹底するための勉強会も毎月実施し、職員もそれを理解し、食事、余暇活動、リハビリと、ご利用者様と一緒に毎日笑顔で楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域への啓発が更に進み、近隣からの入居者が多く、散歩に出ると住民から声掛けもあるとともに、園児の散歩時には立ち寄れる環境にあり七夕の飾り付けやクリスマスには歌ってくれる等世代を超えた交流に努めている。ホームの現状を洗い出し、認知症について正しい認識を共有すべく中核症状と周辺症状をあらためて研修する等意識の変革を図っている。職員は入居者の行きたい場所をリサーチし、月2回の外出を支援する等日々の寄り添いのケアが思いの引き出しとして生かされるとともに、職員は提案できる環境や企画出来ることにやりがいを見出している。最高齢102歳の入居者の生活は和やかで柔らかな顔に、職員のケア姿勢を見ることが出来る。管理者のリーダーシップのもと、入居者の最終章への取り組みも職員のケア向上や達成感として生かされている。地域の中で充実した生活であり、楽しい生活が出来るホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に復唱出来るよう、タイムカード正面に『理念』を掲げており、職員一同共有した実践を行っております。	職員は毎日理念に目を通して一日のケアをスタートさせている。入居者には“優しく”を徹底させ、方言での会話には職員に注意喚起を図りながら方向性を統一している。ホーム近くからの入居者が多くなっている現状もあり、地域密着型事業所としての啓発が進んでいる。	新年度に向け、理念に基づいたケアであったか等を振り返ると共に、次年度の目標を立てる事等検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、外出の機会が減った中でも、地元の神社への参拝や理美容、ショッピングなどご利用者の要望にも合わせ、地域との交流も深めています。また、近くの保育園からの慰問もあり、窓越しの面会に喜ばれることもありました。	町内会に加入し回覧板の受け渡しや、神社の祭りに顔を出したり、夏場の除草作業に参加し地区の一員として活動している。また、入居者との散歩時に声を掛けられたり、散歩コースとして立ち寄ってくれる園児や、保育園の発表会に招待される等(今年は参加はしていない)子どもたちとの接点を作っている。敬老会にはボランティアとして地域からの参加もある。七夕の飾り付けやクリスマス会では歌の披露等園児との交流もあり、運営推進会議の委員として園長も名を連ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村の包括支援事業会議にも出席し、意見を述べるなど、出来る限り地域に貢献できるように心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施するタイミングでコロナ拡大、もしくは蔓延時と重なり、令和3年11月の実施以来全く行っていないが、常に開催の方向では考えています。	役場と協議のうえ、対面での開催は行われていないが、書面にて「転倒や事故」、入居者情報・動向等を報告する等委員からのアドバイスにより報告内容を変更し、意見書を添えて配布している。 身体拘束廃止委員会での内容や外部評価結果出の話し合い等も組み入れると更に充実した会議となることと思われる。	コロナ感染症の状況次第では対面で開催する意向である。開催出来る状況になれば、ホームの課題や、介護事業所全体の喫緊の人材不足問題、地域の問題点等を検討する等運営推進会議を有効に活用されることが期待される。効果的な活用方法として議題を提示して話し合うことも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の相談やその他書類提出などで、定期的に役場訪問した際、施設の近況報告など連絡を密にし、信頼関係の構築に努めています。	毎月役場に家賃の助成等の書類や入退居届等の書類提出に出かけながら情報交換を行っている。地域包括支援センターや社協等とオレンジカフェ開催に向けた話し合いへの参加、ホームとしても地域に声をかけたいとしており、行政等協働して取り組んでいる。また、社協からの入居相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロ』の理念のもと、虐待・拘束・不適切なケアについての勉強会を定期的に開催し、現場でも馴れ合いにならないよう言葉遣いには注意するように心掛けています。	理念として掲げる”安心したゆっくり過ごせる場所の提供”として、身体拘束及び虐待は行わないことをまず謳い、頻繁に勉強会を開催し意識強化を図っている。職員の言葉使いにはその都度注意し、センサーの使用も無く五感を生かしたケアに徹するとしている。入居者の中には「ちょっと帰ってきます。」と自由な環境にあり、職員も見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者との会話を増やすことで、その言葉に耳を傾け、不満などないか引き出すようにしています。万一何か訴えがあれば苦情相談報告書に記入し、職員に情報提供できるシステムを整えています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料などをもとに勉強会を設け、理解と知識の向上を図り支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時は、内容の説明を丁寧に行い、ご家族や関係者のご理解と納得を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、投函はないため、ご家族への連絡や情報提供などでコミュニケーションを図り、そこで得た情報は、職員に周知させ日常生活支援に反映出来ています。	管理者は入居者と積極的に話をすることで要望等を引き出すよう指導しており、入居者からの相談も上がっている。ケアマネジャーの変更により家族との面談により意見等を聞きとりした他、電話でのやり取りにより思い等を引き出し、職員と共有し日々のケアに反映させている。家族の中には、遠方からの訪問や大人数で誕生日をお祝いされたケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回の定期面談に加え、管理者として職員とは個人的に幾度となく面談を行っています。そこで得た意見は真摯に受け止め、施設運営に反映させています。	申し送りを徹底し、全体会議によりホームの現状や課題を共有している。各棟の問題点の洗い出しや、事例検討として転倒について全員で考えている。また、グループラインを活用し、周知徹底を図っている。職員から浴槽内の滑りやすさやにたいしての意見や、余暇活動・企画サービスとして入居者が行ってみたいところや欲しいものを普段の会話から見出す工夫等意見は多岐に渡り、風呂場のマット購入等出来るところからの取り組み等、職員は提案できることでやりがいを見出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力、就業実績やご利用者への接し方、態度など状況把握に努め、適切な環境で働けるよう職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修をはじめ、必要な内容の研修などを受講機会にあて、資質の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の主催するブロック会などに参加し、外部職員との交流を設け、施設運営やサービス向上に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に、ご利用者の状態把握に努め、行動観察や傾聴を行い、コミュニケーションを図ることで、ご利用者との関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画書作成段階等、ご家族の意見、要望などを取り入れ、コミュニケーションを密にとり、安心の信頼関係を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を基に、ご家族の気持ちを汲み取り、訴えに添った支援づくりを行うことで、サービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に日課表に添った生活を送って頂きますが、無理強いせずご本人のペースに合わせ、職員と共に過ごす関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密に行い、場合によっては来設して頂くなど、連携することでご利用者の支援に繋がっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者との会話の上で、行ってみたい場所や会ってみたい人など、可能な限りお連れする、若しくは来て頂くなどの支援に努めています。	家族等の訪問の他、正月の帰省、初詣、神社参拝等馴染みの関係性を継続させている。年末には新築された自宅等出かけ、家族や親戚等との対面も叶えている。入居者同士や入居者と職員も知り合いという関係や地元からの訪問美容等これまでの関係が保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立しないように、食事以外にも日課の中に全員で集まる時間を設け、馴染みの関係づくりに努め、出来る限り一人にしない取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、支援ができるようにお家族にお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の話を傾聴することで、その方の思いを汲み取り、意向の把握に努めています。またコミュニケーションの困難な場合も、思いを察するよう努力しています。	環境の変化が無い生活を重要視した中で、日々入居者の隣で座って話をすることで入居者個々の思いや希望を引き出している。意思疎通困難や理解も難しい方も一緒に座って話を聞いてもらうことで、表情や仕草での推察や、笑いをバロメーターとして捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に、ご家族やご利用者本人に確認し、日常生活に反映出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報を基に、サービス提供していますが、日々変化していくため、職員間の申し送りを徹底し、一人ひとりの状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネによる聞き取りなどで、ご利用者の状態把握や情報収集に努め、会議などで意見交換を行い、ケアプラン作成に反映させています。	本人・家族の意向をもとに、短期3ヶ月、長期半年の目標を立て、見直しにはアセスメントから見直し、現状に即したプランを作成している。本人の何もしないと暇なので…とする思いに、毎日楽しんで過す事が出来ることを課題として具体的なサービス内容のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録への記入や職員間の申し送りなどで情報を共有し、日常生活支援に生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて対応している中でも、工夫やアイデアを生かし、多方面からのサービスが出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症での困難さはあるが、状態を把握した上で地域資源の活用にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の主治医による往診や、歯科などの協力医療機関などとの連携により、状態に応じた適切な医療を受けられるように支援しています。	全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療と必要時に職員が受診に同行している。入院や専門医の受診については、主治医から紹介状を受けている。眼科や歯科など受診の必要があれば、家族にも同行を依頼している。ホームには看護師が3名在籍していることは心強く、日々の健康管理に全員で努めながら、異常の早期発見につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的にご利用者様の体調観察を行っています。変化が見られれば施設看護師による状態把握を行い、必要があれば受診なども行っており、異常の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携し、病院関係者と情報交換を行い、受診や入院の調整を行っています。入院時はおおよその入院期間を把握した上で、ご家族を含めた退院後の検討も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に、ご家族へ説明し同意を得ています。重度化した場合、方針に基づきその都度ご家族と相談し、最良の支援を行うようにしています。	契約の際、急変時は医療機関への搬送となることを伝え、状態変化時の対応について同意書を得ている。継続した医療支援が必要ではなく、希望があれば看取りも行うこととしているが、医療対応の設備がない現状にある。現在、特養への申し込みをされている方もおられる。直近で看取りの要望を受け、準備を進めていたが急変された方がおられる。管理者は終末期支援について、「聞こえておられる」「見えておられる」ことを忘れず接するよう指導している。看取りに関する研修は、管理者が受講して職員へ共有する機会をもっている。	今後も住み慣れた地で、入居者に最良の支援を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、急変時に備え、速やかに対応できるよう随時訓練を行い、周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害訓練に関しては、毎年大雨時、避難を実践しています。消防訓練も定期的に行い、地域消防団とも連携を図り、協力体制を築いています。	今年度は水害訓練を1回、火災訓練を2回実施している。地域消防団とは何かあれば連絡を取り合える体制が出来ている。食備蓄はリストに基づき確保している。豪雨被害を受けた地域であり、訓練へは特に意識を持って取り組んでおり、火災は火を出さない事が重要として、安全チェック表を活用している。	川の危険水位等行政と相談しながら避難を幾度も経験されている。今後もあらゆる災害を想定し、入居者、職員の安全確保等有事に備えて頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、思いやりを忘れず、パーソンセンタードケアの実践に取り組んでいます。	管理者は日頃から入居者へ寄り添い、隣に座って会話をしたいことを伝えている。呼称は苗字を基本とし、入居者への尊厳を持った対応や言葉使いについても共有を図っている。衣替えは家族にも協力を依頼し、季節に応じた衣類や寝具を使用できるようにしている。整髪は訪問カットやカットに外出される方もおられる。	入居者への対応で配慮不足の場面も見られることから、今後も周知徹底に努めていきたいとしている。接遇も含め今後の取組に期待したい。また、玄関内に置かれた面会簿については、個人情報の点からも個別記入など検討いただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送るうえで、常に寄り添い、傾聴を行うことで、ご利用者の思いを引き出し自己決定に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を基に、ご利用者のペースに合わせて、慌てず穏やかな暮らしの支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族へも協力を依頼し、季節ごとの衣類の整理を行い、毎日の身だしなみに注意し、清涼感ある生活支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食前の口腔体操から献立の発表を日課とし、食の安全と楽しみに繋げています。また季節ごとに、おやつ作りにも取り組んでいます。	ご飯をホームで炊き、主菜や副菜などは外注の物を利用し、個々の嚥下力に応じて提供している。おやつはホームで準備しており、週1回パンをおやつに出したり、ジャガイモ団子やチョコ作りなども企画している。毎食前の口腔体操、献立発表は入居者の食への関心を高める取組にもなっており、入居者の出番の機会が、楽しみや自信回復等に反映されることと大いに期待したい。	入居者を中心とした食事として、本来の食事時間に合わせた嚥下体操や、全員の食事が終わるまで職員も腰を下ろし進み具合を見守り、全員の食事が済むまでは食器を引かない等ゆつくりした食事について検討いただきたい。また、コロナ感染症の状況によっては、入居者と職員との会話の中で食を通して自ら作られていた料理等過去の記憶へと繋げることもよいと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本情報を基に、それぞれのご利用者の食事形態や食事量、水分量を調整し、チェック表にて接種状況を確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導を行い、口腔内の観察や清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、ご利用者個々の排泄パターンをつかみ、尿便意の意思表示に寄り添った態度で臨むようにしています。	リハビリパンツを使用される方が殆どであるが、布パンツで過ごされる方や夜間のみオムツ、ポータブルトイレなど個々に応じた排泄を支援している。100歳を越された方も、日中はリハビリパンツのみで過ごされトイレでの排泄を支援しており、夜間はポータブルトイレを使用されている。ポータブルトイレは毎日清潔に管理し、週1回ハイター消毒も行われている。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ねて家族が持参される方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無に関してチェック表やカルテに記載し、内服薬にて排便コントロールを行っています。また、排便困難者に対しては、定期往診時に主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回の入浴を午前中に実施しているが、拒否があれば無理強いせず柔軟な対応を取っています。また、必要に応じて、夜間浴も行っています。	週2回、主に午前中の中の入浴を支援しているが、希望によっては夜間の中の入浴も支援している。介護度が高い方も職員が協力しながら湯船に浸かってもらえるようにしている。入浴拒否がある方にも無理強いせず、毎日声をかけている。超高齢になられた方には、身体への負担を考慮し週1回の中の入浴と清拭で対応している。冬場は特に浴室や脱衣所を温め、保湿剤の使用など季節に応じ配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を基本としているが、個人の要望に合わせて居室で過ごすなど、柔軟な対応をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は厳重に行い、誤薬が無いように徹底しています。また体調管理に努め、日頃の観察も怠らないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやバスハイクなどでの気分転換や、個人のレベルに合わせた楽しみを提供しながら日々の活性化を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ下でも面会制限はせず、コロナ対策をとった上で、いつでも面会出来るようにしています。また定期的に散歩やドライブなど行っています。今後機会があれば地域行事の参加などにも積極的に支援していく予定です。	ホームは目の前に田畑が広がるという環境を生かした散歩や感染症対策を施しバスハイクを実施している。初詣は参拝者の少ない時期に地域神社へ出かけている。家族の面会時に庭の散歩や外食へ出かける方、正月は数名が帰省をされるなど家族の協力が得られている。また、新築された家を見るために帰省された方は、親類、知人と久しぶりの再会を喜ばれたようである。	今後は認知症カフェへの参加やユニット間の交流も外出の一つと捉え楽しみたいとしている。ホーム敷地内や近隣の田畑を眺めながらの散歩など継続した取組が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行にて、金銭管理が困難であるため、所持や預かりは基本行っていませんが、時に地域の商品券をいただいた際は、近くのコンビニなどで買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯所持のご利用者に関しては、充電などの管理やいつでも操作できるように支援しています。また手紙を書かれた際も、ポストへの投函など代行しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は日々清潔に努め、生活通路には休憩できるよう椅子のみを置き、リビングにはゆっくりくつろげるソファを設置しています。また玄関や壁には季節感ある飾りつけも施しています。	趣の異なるユニットには、飾りつけや制作が得意な職員が中心となり、入居者と一緒に季節の掲示物が作られている。ホーム内は掃除や換気を徹底し、入居者が寛げるようソファが配置されている。訪問当日は好天で、日光浴をしながら職員から爪の手入れを受ける方や、自慢の喉を自身の専用マイクで披露される方など、ホームの日常を見る事が出来た。管理者はユニット名に花がついていることから、今後は開花を楽しめる樹木を植えていきたいとしている。	ホーム内の環境整備については、掃除や換気の徹底と共に、入居者の視線に不要な物はないか(洗面台に下げられた雑巾など)注意を払いながら進められることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カラオケで交流できる空間があり、日々楽しまれておられます。またご利用者一人ひとりが自由に過ごすことの出来る空間作りに心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	先の豪雨災害により、馴染みの家具など失くされている方もおり、あまり置かれていませんが、新規ご利用者の家族へは積極的に働きかけています。	入居時に使い慣れた家具や鏡、写真など例をあげながら持ち込み品について説明をおこなっている。遺影やテレビ、チェスト、着慣れた衣類をはじめ必要な日用品が置かれている。また、散歩を頻繁にされる方は帽子を部屋に置き、外出したい時に被って出かけられるようである。豪雨被害により馴染みの品をなくされた方もおられ、職員は本人・家族の心情を察しながら、職員で出来る環境づくりに努めている。	コロナ禍で家族は本人の様子に加え、居室内の状態も気になる点と思われる。今後も職員による整頓や寝具干しなどホームの取組を伝える事で安心につながると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の清掃、整理整頓を毎日実施、確認を行って、安全な環境作りに努めています。		